

ベノミル水和剤 ベンレート水和剤	取扱メーカー： クミカ、サンケイ*、住友化学 原体メーカー： 住友化学
成分： ベノミル〔ベンズイミダゾール系 PRTR・1 種〕…50.0% その他 PRTR 該当成分： カルベンダジム〔PRTR・2 種〕……………2.1%	性状： 類白色水和性粉末 45μm 以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 浸透性を有する殺菌剤である。
- 優れた予防効果と治療効果を兼備した薬剤である。
- 果樹、野菜、まめ類、茶、いも類、てんさい、麦類、水稻などの病害に高い防除効果がある。
- 葉害はほとんどの作物で認められない。
- 人畜毒性は極めて低く、散布中の皮膚障害などの問題は少ない。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

〈水稻の種子消毒〉

- 消毒後は水洗せずに浸種又はは種する。
- 薬液の温度はなるべく 10℃以下をさける。
- 低濃度長時間浸漬の場合は薬液処理中に 1～2 回攪拌する。
- 浸漬処理薬液ともみの容量比は 1：1 とし、種もみはサラン網などの目の粗い袋を用い、薬液処理時によくゆする。
- 種子粉衣処理の場合は適当な容器の中で均一に種子に粉衣するように少量ずつ丁寧によくまぶす。粉衣は付着をよくするため、種子を湿らせ湿粉衣とする。
- イネシנגレセンチュウに対しては、効果が不十分な場合があるので、ばか苗病、いもち病との同時防除剤として使用する。
- 処理を行った種子の浸種に対する注意。
 - 薬剤処理した種もみは数時間放置して、風乾後行う。
 - 停滞水中で行う。
 - 浴比は 1：2 とし、水の交換は原則として行わない。但し、液温が高温の場合など酸素不足にな

るおそれがある時は静かに換水する。

- 水稻の種子消毒で催芽後処理をする場合は、催芽の程度が進んで芽を切った種子ではいたみやすく葉害のおそれがあるので、鳩胸の時期までに処理する。

〈かんしよのさし苗処理〉

- さし苗基部（10cm くらい）を薬液に浸漬し水洗いせずにそのままさし苗する。

〈だいずの紫斑病〉

- 落花後～若莢期に 2～3 回散布する。

〈きゅうり、トマトの土壌病害〉

- 定植時の処理のみでは効果が期待できない場合もあるので定植後更に処理することが望ましい。

〈かんきつの貯蔵病害〉

- 青かび病、緑かび病、灰色かび病に有効であるが、黒腐病には効果が劣るので、黒腐病防除主体には使用しない。

〈なしの枝枯病〉

- マシン油乳剤で希釈し、病斑部とその周辺に 1～2 回塗布する。病斑部を削り取った後塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削り取る。

〈リンゴのモニリア病〉

- 多発条件下では効果が劣ることがあるので、発病初期に時期を失しないように散布する。

〈いちごの萎黄病〉

- 多発地では本剤処理のみでは効果の不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い本剤処理との組み合わせで防除する。
- 灌注処理は地温の高い仮植時期に処理する。土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので注意する。

〈こんにゃくの乾腐病〉

- 種いもの芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に十分かかるように 1m²当り 100ml 散布する。

〈麦類の雪腐病〉

- 散布は根雪近くに行う。

〈たばこの苗床〉

- は種後及び仮植後7日頃から1週間間隔で散布。
- たばこ腰折病防除は、親床では2000倍とし、散布量は1m²当り1～2ℓとする。また発芽時には使用しない。
- 桑胴枯病の散布適期は9月上・中旬である。

【薬効・薬害等の注意】……………

- ハウスなどで常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守る。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。
 - 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉する。
 - 作業中及び処理中は室内に入らない。
 - 処理終了後は扉、窓などを開放して十分換気してから入室する。

〈耐性菌の注意〉

- 連続使用によって薬剤耐性菌が出現し効果の劣った例があるので過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を輪番で使用する。

- 共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

- 適用作物（きゅうり、トマト、たまねぎ、いちご、なす）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 薬剤処理した種子等は食用、動物飼料として用いない。
- 常温煙霧の薬剤処理中はハウス内に入らない。また薬剤処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 共通注意事項6．街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。
- 魚類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は適切に処理する。



【適用と使用法】……………

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数
稲	ばか苗病 いもち病 イネシנגレセンチュウ	乾燥種籾 重量の0.5 ～1.0%	—	は種前 (浸種前 又は 浸種後)	1回	種子粉衣	2回以内 (種子への処 理は1回以内、 床土への混和 は1回以内)
	ばか苗病 いもち病	30～ 50倍				10分間 種子浸漬	
	イネシングレセンチュウ	30倍				24時間 種子浸漬	
		100～ 500倍				6～24時 間種子浸漬	
	ばか苗病	500～ 1000倍				12～24時 間種子浸漬	
	いもち病	7.5～ 15倍	乾燥種籾 1kg 当り希 釈液30ml			種子吹き付 け処理	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数	
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌)	500～ 1000 倍	育苗箱 (30 ×60×3cm 使用土壌約 5 ℓ) 1 箱 当り 500 ml	は種時	2 回以内	灌注	2 回以内 (種子への処 理は 1 回以内、 床土への混和 は 1 回以内)	
	苗立枯病 (トリコデルマ菌)	1000 倍	育苗箱 (30 ×60×3cm 使用土壌約 5 ℓ) 1 箱 当り 1 ℓ	は種時 1 回又は は種時と は種 7 日 後頃の 2 回				
	いもち病	500～ 1000 倍	育苗箱 (30 ×60×3cm 使用土壌約 5 ℓ) 1 箱 当り 500 ml	は種時～ は種 7 日 後頃				
		1000 倍	育苗箱 (30 ×60×3cm 使用土壌約 5 ℓ) 1 箱 当り 1 ℓ					
			育苗箱 (30×60× 3cm 使用 土壌約 5 ℓ) 1 箱 当り 1g	—	は種前	1 回		床土混和
麦 類 (小麦を除く)	雪腐病	2000～ 3000 倍	60～ 150 ℓ	根雪前	2 回以内	散布	1 回	
小 麦	赤かび病			7 日前 まで			4 回以内 (種子への処 理は 1 回以 内、は種後は 3 回以内)	
み か ん	そうか病 灰色かび病		200～ 700 ℓ	前日まで	4 回以内		4 回以内	
かんぎつ (みかん を除く)	貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病) 貯蔵病害 (軸腐病) 貯蔵病害 (炭疽病) 貯蔵病害 (黒斑病)				4000～ 6000 倍		2 回以内	2 回以内
り ん ご	黒星病 黒点病 褐斑病 うどんこ病 腐らん病 輪紋病 すす点病 すす斑病 モニリア病				2000～ 3000 倍		4 回以内	4 回以内
り ん ご (苗木)	白紋羽病	1000 倍	—	植付直前	—	10～30 分 間根部浸漬	—	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数				
な し	胴枯病 輪紋病 黒星病 うどんこ病 心腐れ症（胴枯病菌）	2000～ 3000 倍	200～ 700 ℓ	前日まで	4 回以内	散布	6 回以内 （塗布は 2 回 以内，散布は 4 回以内）				
	枝枯病 胴枯病	20 倍	—	3月～6月	2 回以内	マシン油乳剤 で希釈し塗布					
か き	落葉病 うどんこ病 炭疽病 すす点病	2000～ 3000 倍	200～ 700 ℓ	前日まで	6 回以内	散布	6 回以内				
	疑似炭疽病	2000 倍									
も も	うどんこ病	2000～ 3000 倍		3 日前 まで	3 回以内		3 回以内				
	ネクタリン				灰星病 黒星病 ホモブシス腐敗病						
う め あ ん ず		黒星病 すす斑病		3000 倍	7 日前 まで		1 回	1 回			
	おうとう	灰星病 褐色せん孔病			3 日前 まで		2 回以内	2 回以内			
ぶ ど う		褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 晩腐病		2000～ 3000 倍	45 日前 まで		3 回以内	散布	4 回以内 （休眠期処理 は 1 回以内， 散布は 3 回以内）		
	黒とう病 芽枯病	2000 倍									
		黒とう病 晩腐病 つる割病		200～ 500 倍	休眠期		1 回				
		枝膨病		200 倍							
く り	実炭疽病	2000～ 3000 倍		裂果前 但し， 収穫 14 日 前まで	4 回以内		4 回以内				
	キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病					2000 倍		7 日前 まで	5 回以内	5 回以内
ブルーベリー	斑点病 バルデンシア葉枯病	3000 倍			1 回		1 回				
び わ	灰斑病	2000～ 3000 倍		14 日前 まで	3 回以内		3 回以内				
	ごま色斑点病	2000 倍									
ピ タ ヤ	炭腐病						2 回以内		2 回以内		
いちじく	株枯病	1000 倍	1～10 ℓ / 樹	30 日前 まで	5 回以内	株元灌注	5 回以内				
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病	2000～ 3000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	4 回以内 （種子への処 理は 1 回以 内，は種後は 3 回以内）				
	つる割病	1000 倍	150～300 ml / 株	定植前～ 定植 1 カ 月後		灌注					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数				
う り 類 (漬物用)	炭疽病	1000 倍	150～300 ml／株	定植前～ 収穫45 日前まで	2回以内	灌注	3回以内 (種子粉衣は 1回以内, は 種後は2回以 内)				
す い か	つる枯病 菌核病 炭疽病	2000～ 3000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	5回以内	散布	6回以内 (種子粉衣は 1回以内, は 種後は5回 以内)				
メ ロ ン	菌核病				3回以内		土壌灌注	4回以内 (種子粉衣は 1回以内, は種後は3回 以内)			
な す	半身萎凋病	500 倍	200～300 ml／株	定植後～ 収穫14 日前まで							
		1000 倍	400～600 ml／株			散布					
	黒枯病 灰色かび病	2000～ 3000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで							
	菌核病 褐紋病	2000 倍									
ト マ ト	萎凋病	1000 倍	150～300 ml／株	定植前～ 定植1カ 月後	2回以内	灌注	6回以内 (種子への処 理は1回以内, 灌注は2回以 内, 散布及び 常温煙霧は合 計5回以内)				
	菌核病	2000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	5回以内	散布					
	葉かび病 灰色かび病	2000～ 3000 倍									
ミニトマト	萎凋病	1000 倍	150～300 ml／株	定植前～ 定植1カ 月後	2回以内	灌注	6回以内 (種子への処 理は1回以 内, 灌注は2 回以内, 散布 は3回以内)				
	菌核病	2000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3回以内	散布					
	葉かび病 灰色かび病	2000～ 3000 倍									
ピーマン	うどんこ病 斑点病 炭疽病										
甘長とうがらし	炭疽病	2000 倍									
ね ぎ	萎凋病 小菌核腐敗病	100～ 200 倍	—	定植直前	1 回	5分間 苗根部浸漬	3回以内 (種子粉衣は 1回以内, 苗 根部浸漬及び 灌注は合計1 回以内, 散布 は1回以内)				
				30分間 苗根部浸漬							
	小菌核腐敗病	500 倍	セル成型育 苗トレイ1 箱又はペー パーポット 1冊 (30× 60cm, 使用 土壌約5ℓ) 当り500ml	定植前		灌注					
			1000～ 2000 倍	100～ 300 ℓ		30日前 まで		散布			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農業の総使用回数		
わけぎ	萎凋病	500 倍	—	植付前	1 回	30 分間 種球浸漬	1 回		
たまねぎ	乾腐病	50 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱又は ペーパー ポット 1 冊 (30×60cm, 使用土壌約 5 ℓ) 当り 500 ml ～ 1 ℓ	定植前		灌注	8 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, 育 苗培土混和, 灌注又は苗根 部浸漬は合計 1 回以内, 散 布は 6 回以内)		
		100 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱又は ペーパー ポット 1 冊 (30 × 60cm, 使 用土壌約 5 ℓ) 当り 500 ml						
		1g / 1kg 培土	—	は種前		育苗培土 混和			
		20 倍	—	移植直前		3 分間 苗根部浸漬			
	灰色腐敗病	2000 ～ 3000 倍	100 ～ 300 ℓ	前日まで	6 回以内	散布			
	灰色かび病 黒かび病	2000 倍							
らっきょう	乾腐病	500 倍	—	植付直前	1 回	30 分間 種球浸漬	1 回		
こんにゃく		50 ～ 100 倍		植付前		種いもの芽 基部に散布			
いちご	炭疽病	500 倍		50 ～ 100 ml ／株		仮植前	3 回以内	10 ～ 30 分間 苗根部浸漬	9 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, 苗根 部浸漬は 1 回 以内, 育苗期 の灌注は 3 回 以内, 本圃定 植後の灌注は 1 回以内, 散 布は 3 回以内)
	萎黄病							1 ～ 3 時間 苗根部浸漬	
	炭疽病 萎黄病		100 ml / 株	本圃定植後 但し, 収穫 30 日前まで	1 回	灌注			
豆 類 (未成熟, 但し, えだまめ, さやいんげん, さやえんどう を除く)	菌核病	2000 倍	100 ～ 300 ℓ	30 日前 まで	3 回以内	散布	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内, 灌注は 2 回以内, 散布は 3 回以内)		
	立枯病	1000 倍	3 ℓ / m ²	発芽 14 日 後まで	2 回以内	灌注			
えだまめ	菌核病 紫斑病	2000 倍	100 ～ 300 ℓ	30 日前 まで	3 回以内	散布			
	立枯病	1000 倍	3 ℓ / m ²	発芽 14 日 後まで	2 回以内	灌注			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数
さやいんげん	菌核病 角斑病	2000 倍	100 ～ 300 ℓ	収穫開始 14 日前 まで	3 回以内	散布	6 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 灌注は 2 回以内、 散布は 3 回以内)
	立枯病	1000 倍	3 ℓ / m ²	発芽 14 日 後まで	2 回以内	灌注	
さやえんどう	菌核病	2000 倍	100 ～ 300 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	
	立枯病	1000 倍	3 ℓ / m ²	発芽 14 日 後まで	2 回以内	灌注	
豆 類 (種実、 但し、 だいず、 いんげんまめ、 えんどうまめ、 らっかせいを除く)	菌核病	1000 ～ 2000 倍	100 ～ 300 ℓ	14 日前 まで	4 回以内	散布	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種 後は 4 回以内)
だ い ず	菌核病 紫斑病			前日まで			
	黒根腐病	乾燥種子 重量の 0.5%	—	は種前	1 回	種子粉衣	
いんげんまめ	菌核病	1000 ～ 2000 倍	100 ～ 300 ℓ	7 日前 まで	4 回以内	散布	
	角斑病	1000 ～ 1500 倍		14 日前 まで			
えんどうまめ	菌核病 褐紋病	1000 ～ 2000 倍		7 日前 まで			
	褐斑病 黒渋病	2000 ～ 3000 倍		14 日前 まで			
らっかせい	茎腐病 そうか病	2000 倍		前日まで			
	菌核病 灰色かび病 すそ枯病	2000 ～ 3000 倍		21 日前 まで	2 回以内	2 回以内	
アスパラガス	茎枯病 株腐病	2000 倍		4 回以内	4 回以内	4 回以内	
しょうが	いもち病	1000 倍					
てんさい	褐斑病	2000 ～ 4000 倍					
かんしょ	基腐病	500 ～ 1000 倍	—	植付前	1 回	30 分間苗 基部浸漬	1 回
	つる割病		20 ～ 40 ml ／株	挿苗時		株元灌注	
	黒斑病		—	植付前		20 ～ 30 分間 苗基部浸漬	
ばれいしょ	黒あざ病	種いも重 量の 0.3 ～ 0.4%				種いも粉衣	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数
やまのいも	葉疫病 炭疽病	2000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	4 回以内 (植付前までの処理は 1 回以内、植付後は 3 回以内)
さといも (葉柄)	乾腐病	種いも重量の 0.5 %	—	催芽前	1 回	種いも粉衣	1 回
キャベツ	菌核病 根朽病	2000 倍	100～ 300 ℓ	7 日前 まで	6 回以内	散布	7 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 6 回以内)
ブロッコリー	菌核病	2000～ 4000 倍			3 回以内		4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
カリフラワー		2000 倍					
非結球あぶらな科葉菜類 (みずな、チンゲンサイを除く)	炭疽病 白斑病	4000 倍		21 日前 まで	1 回		2 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、散布 1 回以内)
み ず な				14 日前 まで			
チンゲンサイ				7 日前 まで			
はくさい	白斑病 菌核病	2000～ 3000 倍		7 日前 まで	2 回以内	灌注	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
	炭疽病	2000 倍					2 回以内
なたね	菌核病	1000～ 2000 倍		3 日前 まで			3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
し そ (花穂)		2000 倍		21 日前 まで			
つるむらさき	紫斑病			14 日前 まで			
ほうれんそう	萎凋病	1000 倍	3 ℓ / m ²	21 日前 まで	3 回以内		
パ セ リ	立枯病			45 日前 まで			
セ ネ ガ	黒根病			30 日前 まで			
オ ク ラ	葉すす病	3000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
ふ き	葉枯病	2000 倍		7 日前 まで	2 回以内		2 回以内
しゃくやく (薬用)	灰色かび病	1000 倍		14 日前 まで	8 回以内		8 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農業の総使用回数
みょうが (花穂)	いもち病	2000 倍	100～ 300 ℓ	3 日前 まで	3 回以内	散布, 但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが (花穂)の収穫3 日前まで但し、花穂を収穫しない場合には開花期終了まで		散布	
み つ ば	菌核病	種子重量の0.5%	—	は種前	1 回	種子粉衣	1 回
		500 倍				24 時間 種子浸漬	
せんきゅう	黒色根腐病	160 倍		植付前		30 分間 種球浸漬	
かのこそう	半身萎凋病					30 分間 苗浸漬	
う ど	菌核病	500 倍		種株冷蔵 保存前		30 分間 種株浸漬	
たらのき	芽枯症	1000 倍		28 日前 まで		駒木瞬間 浸漬	
野 菜 類 豆類(種実) とうもろこし	フザリウム菌による病害	乾燥種子重量の0.16%		は種前		種子処理機による種子粉衣	
茶	炭疽病 白星病 輪斑病 褐色円星病	2000～ 3000 倍	200～ 400 ℓ	摘採 14 日 前まで	6 回以内	散布	6 回以内
	白紋羽病	1000～ 2000 倍	—	苗木根部 24 時間浸漬			
ば ら	うどんこ病 黒星病	2000～ 3000 倍	100～ 300 ℓ	—	2 回以内	散布	6 回以内
き く	白さび病	1000 倍					
	黒斑病 褐斑病	2000～ 3000 倍					
チューリップ	球根腐敗病	100～ 500 倍	—	植付前又は貯蔵前	2 回以内	15～30 分間 球根浸漬	2 回以内
		球根重量の0.1～ 0.2%				球根粉衣	
		20 倍				植付前	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数
シクラメン	萎凋病	500～ 1000 倍	50～100 <i>ml</i> ／鉢	—	3 回以内	灌 注	3 回以内
トルコギキョウ	立枯病 (フザリウム菌)	1000 倍	セル成型育 苗トレイ 1 箱又はペー パーポット 1 冊 (30× 60cm, 使 用土壌約 4 ～5 <i>ℓ</i>) 当 り 500 <i>ml</i>	定植前日	1 回		1 回
しゃくやく ぼ た ん	根黒斑病	20 倍	—	植付前	2 回以内	10 分間 苗基部浸漬	2 回以内
		500 倍				16 時間 苗基部浸漬	
りんどう	花腐菌核病	3000 倍	100～ 300 <i>ℓ</i>	—	6 回以内	散布	6 回以内
パンジー	根腐病	2000 倍	セルトレイ (60×30cm) 1 冊 当り 500 <i>ml</i>	育苗期	2 回以内	灌 注	2 回以内
ゼラニウム	黒根病						
樹 木 類	ごま色斑点病 炭疽病 輪紋葉枯病		200～ 700 <i>ℓ</i>	発病初期	—	6 回以内	—
いぬつげ	枝枯病				6 回以内		6 回以内
た ば こ (苗床)	腰折病	1000～ 2000 倍	1～3 <i>ℓ</i> ／ <i>m</i> ²	は種及び 仮植後	2 回以内	散 布	2 回以内
	黒根病	1000 倍	2～3 <i>ℓ</i> ／ <i>m</i> ²	仮植又は 植付 1～3 日前まで			
西 洋 芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	2000～ 3000 倍	2 <i>ℓ</i> ／ <i>m</i> ²	発病初期	6 回以内		6 回以内
桑	胴枯病	1000 倍	100～ 300 <i>ℓ</i>	摘採 9 日 前まで	2 回以内		2 回以内
	輪斑病	2000 倍					

作物名	適用場所	適用 病害名	10 a 当り使用量		使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数
			薬量	使用液量				
きゅうり	温室、ガラ ス室、ピニー ルハウス 等の密閉で きる場所	灰色かび病	150g	5 <i>ℓ</i>	前日まで	3 回以内	常温煙霧	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)
ト マ ト						5 回以内		6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、灌注は 2 回以内、散布は 3 回以内)